資源循環の取り組み

廃棄物の減量とリサイクル

列車や駅から日々排出される廃棄物、総合車両センターからの産業廃棄物、さらに生活サービス事業における飲食業の生ゴミや小売業の一般廃棄物等、JR東日本グループから排出される廃棄物は多種多様です。

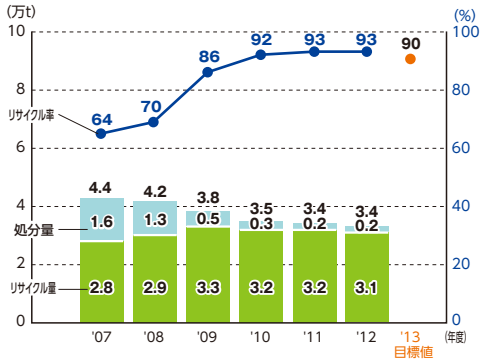
鉄道事業や生活サービス事業等から排出される多様な廃棄物を削減するために、発生の抑制（リデュース）、再利用（リユース）、再資源化（リサイクル）を進めているほか、特にリサイクルについては廃棄物の種類ごとに達成目標を定めて取り組みを進めています。

駅・列車からのゴミ回収と再生☆

2012年度における駅や列車から排出されたゴミのリサイクル率は93%となりました。駅や列車から排出されるゴミには資源ゴミも含まれているため、再び資源として利用できるよう、これまで駅への分別ゴミ箱の設置や、上野、大宮及び新木場にリサイクルセンターを設置し、徹底した分別を行ってきましたが、2010年10月からは、これまでの上野及び新木場のリサイクルセンターを統合した、「JR東日本東京資源循環センター（事業運営：（株）東日本環境アクセス）」を稼働し、さらなるリサイクル率向上のための取り組みを進めています。

JR東日本東京資源循環センター

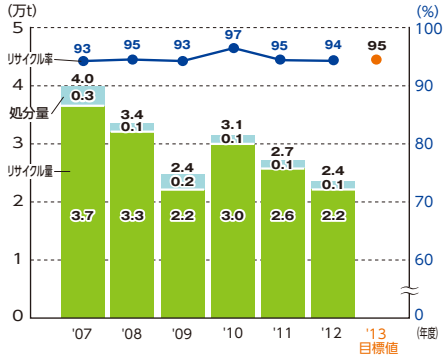
■ 駅・列車からのゴミの推移



総合車両センター等でのリサイクル☆

車両の製造時やメンテナンス時に発生する廃棄物のリサイクルにも取り組んでいます。新津車両製作所では、車両設計時からライフサイクル全体を考慮する等の対応を進めているほか、各地の総合車両センターでは、廃棄物を20~30種類に分別を徹底し、廃棄物の減量とリサイクルを図っています。2005年度からは、廃車車両のうち外部に売却したうえで解体される車両についても把握の対象として取り組みを強化しています。

■ 総合車両センターなどからの廃棄物の推移



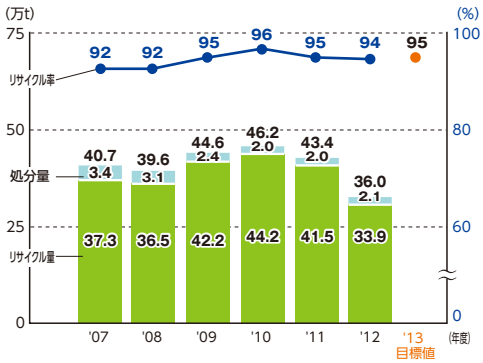
長野総合車両センター
廃車輪をブレーキディスクの部品にリサイクルしています

設備工事における廃棄物の削減☆

設備工事における廃棄物の削減のため、建設副産物の適正処理や廃棄物を抑制する設計・工法を規定する等の取り組みを進めています。

駅や構造物の建設やメンテナンスによる設備工事では、外部からの受託工事※による4万トンを含め、2012年度には36万トンの廃棄物が発生しました。

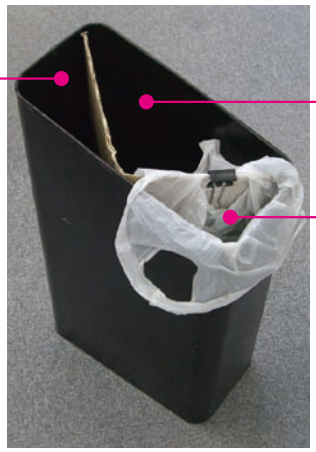
■ 設備工事からの廃棄物の推移



※受託工事　列車の安全運行の確保等のために、JR東日本が自治体等から委託を受けて行う社外施設の工事。

オフィスにおける廃棄物削減の取り組み☆

本社・支社等の各オフィスでは、ペーパーレス化による廃棄物の削減や、ゴミ箱の工夫等によりリサイクルの取り組みを行っています。2012年度には、廃棄物2,738トンのうち、2,340トン（86%）をリサイクルしました。



東京工事事務所オフィス内で工夫して取り組んでいるシステムゴミ箱（コピー用紙の空き箱を工夫して利用）

水資源の有効活用☆

JR東日本では、年間1,170万m^3の水資源を使用しています。このため、中水※の利用を積極的に進めており、雨水や手洗い水をトイレの洗浄水として再利用しています。本社ビルでは2012年度に使用した3.5万m^3の水のうち、2.4万m^3を再利用しました。

※中水　上水と下水の中間に位置づけられる水の用途。水をリサイクルして限定した用途に利用するもの。

乗車券類のリデュースとリサイクル☆

回収された使用済みの切符は製紙工場へ送り、切符の裏面の鉄粉を分離してトイレットペーパーや段ボールにリサイクルしています。2012年度には回収量357トンすべてをリサイクルしました。

また回収した磁気定期券についても、固形燃料としてリサイクルしています。

駅で集められる使用済み切符は、トイレットペーパーとして首都圏の主要駅に戻ります

グリーン調達の推進

JR東日本では、事業活動と環境保護の両立に向けエコロジー推進活動を展開していますが、その一環として環境負荷ができるだけ小さい製品を優先的に調達することを進めており、1999年に「JR東日本グリーン調達ガイドライン」を制定し、資材調達の取引先を選定するにあたっては、環境及びCSRへの取り組み状況を調査把握し、これを選定指標の一つとしています。

また、オフィス等で使用する事務用品等についてグリーン購入を促進するため、新たにJR東日本グループの目標として「グリーン購入実施率100%」の目標を設定しました。JR東日本グループは、このグリーン購入を通じ、循環型社会の構築に向けた取り組みを進めていきます（2012年度は「グリーン購入実施率100%」の目標を達成しました）。

ゴミの社内循環活用

駅で発生するゴミについて、社内での循環利用を進めています。

駅や列車の分別ゴミ箱で回収した雑誌、新聞紙等は、コート紙や社内の事務用紙等にリサイクルし使用しています。

駅等で回収された新聞古紙を社内の事務用紙にリサイクル

廃ペットボトルから土木資材へのリサイクル

JR東日本では、駅や列車から排出された廃ペットボトルを再生、樹脂製防草シート（商品名:ナクサR-PET）を製造するリサイクル体系を構築しました。これまでの樹脂製防草シートの主成分はポリエチレンでしたが、廃ペットボトル（ポリエチレンテレフタレート）を主成分とする防草シートを開発、試験施工を経て製品化に成功し、実用化しました。